

会 議 記 録

会議名 予算特別委員会民生分科会

開催日 令和6年3月8日（金） 開会 午後 2時10分

閉会 午後 5時22分

出席者 委 員 分科会長 白石 幹 男

川 田 俊 介 浅 野 貴 之 内 海 まさかず

青 木 一 男 松 本 喜 一 梅 澤 米 満

議 長 中 島 克 訓

傍 聴 者 小太刀 孝 之 市 村 隆 雨 宮 茂 樹

小 平 啓 佑 大 浦 兼 政 古 沢 ちい子

大 谷 好 一 小久保 かおる 天 谷 浩 明

針 谷 正 夫 広 瀬 義 明 氏 家 晃

福 田 裕 司 大阿久 岩 人 小 堀 良 江

関 口 孫一郎

事務局職員 事務局 長 白 井 一 之 議事課 長 森 下 義 浩

課 長 補 佐 佐 藤 優 主 査 村 上 憲 之

委員会条例第21条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

生 活 環 境 部 長	大 豆 生 田	雅	志
保 健 福 祉 部 長	首 長	正	博
こ ど も 未 来 部 長	小 川		稔
市 民 生 活 課 長	茅 原	節	子
交 通 防 犯 課 長	高 久	一	典
保 険 年 金 課 長	臼 井		司
環 境 課 長	福 田	欽	也
環 境 課 斎 場 整 備 室 長	安 塚	欣	也
ク リ ー ン 推 進 課 長	糸 井	孝	王
人 権 ・ 男 女 共 同 参 画 課 長	渡 辺	由	夫
福 祉 総 務 課 長	田 中	典	行
福 祉 総 務 課 主 幹	江 田		曉
障 が い 福 祉 課 長	鈴 木	正	之
高 齢 介 護 課 長	寺 内		均
地 域 包 括 ケ ア 推 進 課 長	江 面	健 太	郎
健 康 増 進 課 長	毛 塚	裕	子
子 育 て 支 援 課 長	神 長	利	之
保 育 課 長	松 本	佳	久

令和6年第1回栃木市議会定例会
予算特別委員会民生分科会議事日程

令和6年3月8日 民生常任委員会終了後 全員協議会室

- | | | |
|------|-------|--------------------------------|
| 日程第1 | 議案第1号 | 令和6年度栃木市一般会計予算（所管関係部分） |
| 日程第2 | 議案第2号 | 令和6年度栃木市国民健康保険特別会計予算 |
| 日程第3 | 議案第3号 | 令和6年度栃木市後期高齢者医療特別会計予算 |
| 日程第4 | 議案第4号 | 令和6年度栃木市介護保険特別会計（保険事業勘定）予算 |
| 日程第5 | 議案第5号 | 令和6年度栃木市介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）予算 |

◎開会及び開議の宣告

○分科会長（白石幹男君） ただいまの出席委員は7名で、定足数に達しております。

ただいまから予算特別委員会民生分科会を開会いたします。

（午後 2時10分）

◎諸報告

○分科会長（白石幹男君） 当分科会に送付されました案件は、各分科会議案送付区分表のとおりであります。

◎議事日程の報告

○分科会長（白石幹男君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎議案第1号の上程、質疑

○分科会長（白石幹男君） ただいまから議事に入ります。

日程第1、議案第1号 令和6年度栃木市一般会計予算の所管関係部分を議題といたします。

なお、本予算に対する説明は2月9日に開催された議員全員協議会及び各分科会説明表の送付をもって済んでおりますので、分科会での説明は省略いたします。

また、分科会では質疑のみを行い、討論、表決については3月22日金曜日に開催される全体会において実施しますので、よろしくお願いいたします。

これより審査に入ります。

お諮りいたします。本案につきましては、各部所管ごとに歳入歳出等を一括して審査いたしたいと思ひます。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

なお、執行部の答弁に際し、質問の内容によりましては担当部長にご答弁いただくこともありまひますので、ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

また、質疑に際しましては、一問一答の方法により、ページ数もお知らせ願ひます。

まず、生活環境部所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の生活環境部を御覧の上、所管部分をご確認いただき、質疑をお願いいたします。

では、質疑ござひませんか。

浅野委員。

○委員（浅野貴之君） 167ページ、歳出なのですが、主要事務事業でふれあいバス運行事業費について関連して伺います。

特に岩舟線について伺います。2021年3月から開始されて好評をいただいている。コロナ禍もありましたけれども、好評であるということでありました。令和6年度の乗客の見込みはどのようになっているのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 高久交通防犯課長。

○交通防犯課長（高久一典君） 岩舟線の見込みになるのですけれども、令和3年度、令和4年度とここへ来て乗客のほうも若干ではありますが、伸びてはきております。令和4年度の実績で2万2,293名という搭乗がありますので、それ同等もしくは2万3,000名ぐらい搭乗していただければというふうには、見込みということなのですけれども、思っているところです。

以上です。

○分科会長（白石幹男君） 浅野委員。

○委員（浅野貴之君） 現在は、休日のみの乗り入れということだと思いますけれども、平日も乗り入れてもらいたいという声も多く聞きますけれども、その辺の検討状況についてはどのようなか。

○分科会長（白石幹男君） 高久交通防犯課長。

○交通防犯課長（高久一典君） すみません。浅野委員の今のお話は、佐野線への乗り入れの件だったのですね。すみません。私、一般的に岩舟線というので捉えてしまったものですから。

では、先ほどの質問も踏まえまして、佐野線乗り入れにつきましては顕著に伸びています。実際今のところ土日運行ということで、平日の運行になりますと、今のところ平日運行までは、正直言いましてちょっと見込んでいる状況ではありません。ただし、変更等になりますと、当然公共交通会議等々で協議、承認等々も必要になってきますので、今後もし要望等があれば、テーブルにはのせることもよろしいのかなというふうには思いますが、来年度以降、伸ばすという考えで今のところいるという状況ではございません。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 関連で、ふれあいバスということで、これは全体的に見ると需要を伸ばしているというふうでよろしいのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 高久交通防犯課長。

○交通防犯課長（高久一典君） そのとおりです。伸びております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 予算上で出てくる額というものは大して変わらないのですけれども、ガソリン代とか、そんなのが乗った額が上がってきているというふうに考えていいのですか、ここは。

○分科会長（白石幹男君） 高久交通防犯課長。

○交通防犯課長（高久一典君） 委員おっしゃるとおりでございます。燃料費及び、これはちょっと
広げてしまいますけれども、人件費なんかも確かに上がってきているのは事実でございます。

○分科会長（白石幹男君） 川田副分科会長。

○副分科会長（川田俊介君） 203ページなのですが、昨年も多分お聞きしたかと思うのです
けれども、不妊治療、この間ちょっと一般質問でもやったのですが、この年度の見込みです
か、何件ぐらいの不妊治療を見込んでいるのかなというのをちょっとお聞きしたいと思います。

○分科会長（白石幹男君） 白井保険年金課長。

○保険年金課長（白井 司君） 令和6年度の見込みにつきましては、30件を見込んでおります。ち
なみに今年度におきましては、現在のところ19件の申請のほうをいただいております。

以上です。

○分科会長（白石幹男君） 川田副分科会長。

○副分科会長（川田俊介君） 今年度実績が19件ということ。これはあれですね、これは保険適用
外になった部分の上限、年間15万円、2分の1の上限15万円ということで、これはあれですか、一
般質問でやったのですけれども、15万円の上限、自分もこれ使わせてもらったのです。体外受精と
かやらせてもらって、でもやっぱり全然金額的に足りないですね、やってみたのですけれども。
倍どころではなくて、本当に何倍もかかっているという形で。私の妻とかも言っていたのだけれど
も、切実な思いとして、この枠がなければもっともっと、さっき松本委員も多分言っていたのです
けれども、昨年度の子供が想定よりも大分少なくて、赤ちゃんお祝い金も大分補正で下方修正した
ということだったので、これ上限がなければ大分増えて、可能性が広がるかなと思うので、どうか
ちょっとこの上限の撤廃というのを強く要望したいと思います。

○分科会長（白石幹男君） 要望でいいのですか。

○副分科会長（川田俊介君） 要望で。

○分科会長（白石幹男君） 聞いてしまえばいいのにな。

川田副分科会長。

○副分科会長（川田俊介君） そういう考えはないですか。

○分科会長（白石幹男君） 大豆生田生活環境部長。

○生活環境部長（大豆生田雅志君） 先日の一般質問でもお答えさせていただきましたが、やはり保
険適用になりまして、こちらについては件数が減ったということで、費用がかからなくなった部分
がございます。そういったことも踏まえまして、議員に先日ご提案いただいた、この上限をちょっ
と変えろとか、あとは東京都で始まったような制度、いわゆる不妊治療ではない卵子の保存等とか、
そういったところはちょっと来年度検討させていただきたいというふうには考えております。とい
うことでよろしく願いいたします。

○分科会長（白石幹男君） 川田副分科会長。

○副分科会長（川田俊介君） ありがとうございます。では、強く考えていただいて。さっきちょうど話が出たので、卵子凍結ということですが、ちょうどこれ多分19件ということは、上限15万円だから、多分280万円とか285万円しか出ていないということですよね。450万円取ってあって。多分卵子凍結しても、この間、自分、計算して言ったと思うのですが、東京都の割合と計算し直すと、多分500万円もかからないぐらいな感じだと思うので、栃木市でもしやってみたら。でも、東京都で卵子凍結してしまったら、メディアで物すごい取り沙汰されて、子供が欲しいと思っている若い世代には物すごい強いメッセージになると思うので、ぜひそこら辺はご検討のほうをよろしくお願いします。ご要望です。

○分科会長（白石幹男君） これは要望ね。

関連、内海委員。

○委員（内海まさかず君） 去年度は1,300万円つけていて、111件を予定をしていたということで、大体そういうので子供を欲しがる世帯というものが分かるのですけれども、保険が適用になったことによって、栃木市で対象となるというか、望んでいる世帯が何件になるのかとかというのは予測というものはできるのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 臼井保険年金課長。

○保険年金課長（臼井 司君） 把握方法につきましては、妊娠されまして母子手帳を頂いた方という方のほか、子供をつくりたいというような要望といいますか、そういった思いのある方というものの把握につきましては、今のところは方法がありませんので、把握のほうはちょっと難しいのかなというふうには考えております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 去年までの111件というのも、これは助成をもらうために申請をするとか、そういうことをしたから111件とか、その数字が出てくるといことなのですか。保険になつてしまうと、もう後でレセプトを見て治療したかどうかというものが分かる。そうでないと分からないという形でよろしいのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 臼井保険年金課長。

○保険年金課長（臼井 司君） 今年の申請件数は19件ということでありまして、これにつきましては保険が利かない不妊治療が対象ということで、この申請を受け付けております。恐らくそれ以外につきましては、保険診療にて不妊治療のほうが行われているものというふうを考えておりまして、こちらで分かるのは、例えば国民健康保険であればレセプトは市のほうに来ますが、社会保険、扶養者の方、もしくは仕事をされている方は各保険組合とか協会けんぽのほうにレセプトが行ってまいりますので、それについてもなかなか把握するのは難しいというふうには考えます。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

そのほか。

梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） 125ページなのですが、とちぎクリーンプラザのごみの発電、その余剰金ほかの資源ごみ販売も含まれますけれども、1,788万円入るのですね。その内容をお聞きしたいと思います。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 余剰電力売却代等というふうに立っていますが、こちらは内訳を申し上げますと、余剰電力売却代、それと再生品提供事業の売上金を計上しております。余剰電力売却代につきましては、月に16万9,552キロワットアワーを見込んでおりまして、これが1年間で1,770万1,229円ほど。そして、再生品提供事業売上金につきましては、年6回行うわけなのですが、1回当たり8万8,435円の売上げを見込みまして、その6回分ということで合計で46万1,400円……すみません。ちょっと単価のほうが間違っておりました。再生品提供事業売上金につきましては、6回で合計46万1,400円を見込んでいるところでございます。

○分科会長（白石幹男君） 梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） 46万円ということですが、どのようなものを販売しているのかちょっとお聞きしたいと思います。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 粗大ごみ等で出されましたものになるのですが、人気があるものとしては、自転車、あとはたんす等の家具、スチールラックのようなもの、そういったものが人気の商品というのですか、再生品になっております。

○分科会長（白石幹男君） 梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） 分かりました。

売電ですが、2キロワットと言われましたけれども、2キロワットで1,700万円売上げがあるということですので、これが3キロワットとか4キロワットに上げることはできないのかどうか。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 一月16万9,552キロワットアワーです。16万9,552キロワットアワーを見込んでおります。発電した電気を工場で使っております。クリーンセンターの動力源としてその発電のエネルギーも使っていますので、基本昼間はほぼほぼ工場の中で使う電気で使われてしまうというような形にはなるかと思うのですが、その残りを売却しているということでございます。出力につきましては、今回基幹的設備改良工事で2,500キロワットアワーから2,700キロワットアワーに増力というのですか、出力を上げているのですが、東電のほうの送電線の関係で、それ以上を出力を上げることができないというところがありまして、ちょっとその制限の中での売却ということになります。

○分科会長（白石幹男君） 梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） そうしますと、工場の中で全て使うということではなくても、全部賄うことができるということですね。残りを東電さんに持っていつているということで、買っていただいているというわけなのですけれども、電線が遅いためにそれ以上のパワーがあっても受け入れてくれないということですよ。確認のためにすみません。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） そのとおりでございます。季節等によって工場の中で使う電力量も変わりますので、場合によっては買っている時間帯もございますが、基本的には自分のところで発電している電気で動いているというようなことでございます。

○分科会長（白石幹男君） 関連、内海委員。

○委員（内海まさかず君） 今の答弁の中で、東電が買っているというのはちょっと違うのではないかなと思うのですけれども。問題は、今まで東電に売っていたものを違う業者に変えたのですけれども、その差というものは、今の業者のほうが得なのか、それとも東電のほうが得だったのかというものは分かりますか。お願いします。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） そうですね。東電から昨年の6月からだったですか、ケーブルテレビ系列の会社に買っているのですが、単価的には東電よりも有利な金額で買っていると思います。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

川田副分科会長。

○副分科会長（川田俊介君） 225ページなのですけれども、住宅用低炭素設備設置費補助金なのですけれども、ちょっと具体的にどういったものか教えてほしいのですが、お願いします。

○分科会長（白石幹男君） 福田環境課長。

○環境課長（福田欽也君） 住宅用低炭素設備設置費補助金であります。太陽光を使って発電をした設備に対して蓄電池を設置したもの、これに対して大体5万円、それからV2Hと言っているのですが、それは自動車に給電したり、自動車から家庭のほうに戻す、そういう設備を設置した場合は補助をします。こちらは4万円ということで、そういう補助になっております。

○分科会長（白石幹男君） 川田副分科会長。

○副分科会長（川田俊介君） 了解です。分かりました。ということは、大体百何十件とか見込んでいるということですか。

○分科会長（白石幹男君） 福田環境課長。

○環境課長（福田欽也君） 令和6年度の見込みでは、住宅用の蓄電池が112件、それから電気自動車のシステムが10件ということで見込んでおります。

○分科会長（白石幹男君） 川田副分科会長。

○副分科会長（川田俊介君） これ大体110件、120件ぐらい見込んでいるということなのですけども、栃木市もカーボンニュートラル宣言したと思うのですけれども、2030年ぐらいまでにはある程度、カーボンニュートラル宣言を2050年までにしなくてはいけない。ということは、2030年までにはある程度道筋をつけなくてはいけないわけなのですけれども、このままの流れで2030年までに大体の、2050年に向けてのカーボンニュートラルに向けた道筋って大体立つのですか。プラス・マイナス・ゼロにしなくてはいけないのですよね。カーボンニュートラルをしなくてはいけないわけではないですか。ちょっと予算的にもカーボンニュートラル宣言をした割には予算がとても少ないのではないのかなと、ちょっと自分的には思うのですが、いかがですか。

○分科会長（白石幹男君） 福田環境課長。

○環境課長（福田欽也君） こちらの予算というか、こちらは屋根貸し事業とかの電気代をこちらに充てているというふうな状況がありまして、なかなか増やしたいのはやまやまなのですが、増やすことが難しいというような状況でございます。カーボンニュートラル宣言につきましてなのですが、一応こちらだけではなくて、そのほかにいろんな事業ということで、カーボンニュートラルが実現できていけたらなということで、こちらはフラッグシップというのでしょうか、そういう旗印の下にということやっていけたらと思っております。

○分科会長（白石幹男君） 青木委員。

○委員（青木一男君） 225ページ、生物多様性保全事業、要はクビアカツヤカミキリの伐採に対する補助金なのですが、令和5年がたしか478万円、令和6年度予算が1,060万円ということで、多分倍ぐらいになるということかなと思うのですが、その要因を、単なる被害が多いから倍の予算をつけようとしているのか、それをお聞きしたいと思います。

○分科会長（白石幹男君） 福田環境課長。

○環境課長（福田欽也君） 一応今年度も出してはいたのですが、今年度もさきの議会で補正をさせていただいたとおり、増やした状況であります。それでも足りないというような状況でありまして、県のほうの協力を得まして、これだけの額にすることができたというような状況です。やはり令和4年から急激にクビアカツヤカミキリの被害の状況は爆発的な広がりを見せているというような状況でございます。

○分科会長（白石幹男君） 青木委員。

○委員（青木一男君） 本当にすごい勢いでこういった被害が拡大しているということなのですが、処理方法というか処置方法ですよね。対策の、その処置方法というのは変わらないのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 福田環境課長。

○環境課長（福田欽也君） いろいろ県の自然環境課とも相談とかは行っているのですが、一番有効なのは、被害を受けた被害木は伐採をしていくというのが今のところは効果的なもの。例えば薬を

一気にまいてしまうとかというと、ほかの生態系にも非常に影響を及ぼしてしまうので、地道にや
っていくしかないというのが今のところの状況でございます。

○分科会長（白石幹男君） 青木委員。

○委員（青木一男君） 先ほど課長が爆発的に増えているということで、県の事業というか、補助金
がほとんどなのですけれども、県等の見通し、このまま行ったら、本当に桜の木と桃等も被害に遭
うと思うのですが、今後どのように対策というか、今後の見通しというのは、どのようにお考
えなのかお聞きしたいと思います。

○分科会長（白石幹男君） 福田環境課長。

○環境課長（福田欽也君） 一応県のほうもいろいろな対策を考えているようでして、先日も足利、
佐野、栃木のほうと一緒に現地を確認しまして、どのような方法があるか。例えば卵を早く発見す
る方法で、卵の段階で潰すことができないかとか、あとは網巻きの状況は、木に網を巻いて被害を
防げるのではないかとかということを試行錯誤しているような状況でございますので、県のほうと
も連絡を取り合いながら対策を考えていきたいというふうに考えております。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

そのほか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、せっかく開いているので225ページの一番下、斎場整備、4,400万
円を買うということなのですけれども、これは先ほどの説明どおり、来年度も4,400万円で施設を
買っていく、10年間で買っていくということなのですか。

○分科会長（白石幹男君） 安塚斎場整備室長。

○環境課斎場整備室長（安塚欣也君） 午前中にもちょっとありましたけれども、整備費の分割分が
15年間あるわけですが、それが4,483万8,000円という形で、今後この金額が15年間支払っていくと
いう形になります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） その次のページで、今度はPFIの維持管理運営モニタリング委託料と、
PFIにするというものはもう任せるとのことなのですけれども、それに対して指定管理もして、
料も払った上でモニタリング料も払って、15年かけて施設を買っていくという、そういう計画だっ
たのですか。

○分科会長（白石幹男君） 安塚斎場整備室長。

○環境課斎場整備室長（安塚欣也君） 指定管理委託料のほうですが、こちらに関しては維持管理運
営費という形になりますけれども、こちらにつきましても当初契約時に建設、設計、また維持管理
費という形で契約をしまして、それを維持管理運営、15年半で支払っていくという形になりま
す。その下のモニタリングにつきましても、令和7年度までですか、業務委託を行いまして、その

業者の専門的な知識から意見等をもらってモニタリングをしていくと。令和8年度以降については、今までの令和7年度までの経験を生かして市の職員がモニタリングをしていくという形になります。

以上です。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） だから、斎場はPFIでやると。PFIの仕組み自体は、もう民間が造ってしまって、それを毎月栃木市が使用料を払うという形で分割で払っていくと。造るだけではなくて、その運営も、サービスを買うという形でやるというものだったのですけれども、それで思っていると、こうやって指定管理料は別に払いますよと。建物のあれも別で払いますよと。そして、指定管理を監視する業者も栃木市が雇いますよという形になっているのですよね、今。

○分科会長（白石幹男君） 安塚斎場整備室長。

○環境課斎場整備室長（安塚欣也君） 説明不足で大変申し訳ございません。その指定管理委託料となっておりますが、PFI事業として契約をした維持管理運営費というものです。モニタリングにつきましては、業者の力も借りまして、令和7年度までですが、モニタリングをしていくという形になります。

以上です。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） よく分からないのですけれども、指定管理者を指定する時点で、その能力があるということではないということですか、これでいくならば。

○分科会長（白石幹男君） 安塚斎場整備室長。

○環境課斎場整備室長（安塚欣也君） 今、事業者の方と事業契約をするときに維持管理運営までを含めた契約という形になっておりますので、こちらは一応指定管理料という形にはなっておりますけれども、令和3年の3月議会だったと思うのですが、一応指定管理としての認定といいますか、事業者も併せて指定管理という形で行っております。ですので、建設をPFI事業として契約をした事業者が基本的には指定管理も同じようにやっていくという形になります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 一般的なPFIとはかなり違うやり方をやっていて、何か後から後から出てくるので、何なのだという思いがしています。これは意見です。

すみません、1つだけ。整備室はいつまであるのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 安塚斎場整備室長。

○環境課斎場整備室長（安塚欣也君） 今のところ今月いっぱいという形です。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、167ページで、防犯灯の維持管理事業費ということで、これは1.5倍、

前年度は4,000万円だったのが6,400万円になっているのですけれども、電気料が上がったということなのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 高久交通防犯課長。

○交通防犯課長（高久一典君） 要因の一つでもあります。確かにご承知のとおり、昨今右肩上がりで電気料等々も上がってきているのですけれども、実際に12月のときに、くしくも補正で電気代、維持管理の電気料を補正させていただいたのですが、そのときの電気料、上限の金額で今回も査定というのですか、算出させていただきました。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、同じく今度は下から2番目で、蔵タクの運行事業費なののですけれども、どうも利用者が少なくなっているのかなという感じがしているのですが、これはどういう状況なのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 高久交通防犯課長。

○交通防犯課長（高久一典君） 比較対象のベースとして、一応令和元年度の乗車人数を、そこをベースにしますと、確かにコロナ等々もありまして、乗客というのですか、減ってきているのは事実です。ですが、ここコロナ明けというのもちょっと変なののですけれども、5類に移ってから人の足が外に向くようになりまして、徐々にではありますが、乗客は増えてきている状況であります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 令和元年度に対してどのぐらいまで戻ってきているのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 高久交通防犯課長。

○交通防犯課長（高久一典君） 人数的に、令和元年度が約5万7,000人、令和4年度につきましては約4万2,300人と。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 予算上では、デマンドタクシーを維持する上での予算がここにのっていて、利用料というものはそれぞれタクシー会社が入るというシステムだったと思うのですけれども、それ自体、デマンドタクシーの運行料金自体が減ってきているというのはどういう仕組みでなっているのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 高久交通防犯課長。

○交通防犯課長（高久一典君） 当然運賃収入は、乗客とある程度比例しておりますので、乗客が令和元年から比べて少なくなっていると、それに伴って運賃収入も減ってきていますという状況になりますので、逆に令和3年、令和4年、今年度につきましては乗員も増えてきておりますので、運賃収入もそれに見合っ入ってきているという状況です。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） ちょっと私の質問の仕方が悪かったですね。補助金のほうがどんどん減

ってきているのですけれども、デマンドタクシーができる状況のベースを補助していたのかなと思ったのですが、そうではないということなののでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 高久交通防犯課長。

○交通防犯課長（高久一典君） 補助金につきましては、実は今年度になるのですが、来年度予算につきまして栃南タクシーさんが業務を8月に廃業しまして、その分の当然補助がなくなるということです。栃南タクシーさんへの補助分が減っていると。それが今回の数字の差額分ということです。すみません。私の質問の意図が取れなくて申し訳ありませんでした。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 175ページなのですから、一番下の戸籍情報システムということで、補正予算でもすごく繰越しをしたのですけれども、この額というものは、その繰越しが入っていて、またどのようなものの改修のために使うものなののでしょうか。ちなみに前年度は560万円だったということです。

○分科会長（白石幹男君） 茅原市民生活課長。

○市民生活課長（茅原節子君） お答え申し上げます。

まず、繰越明許費で繰越した分につきましては、住民票とかのマイナンバーカードに振り仮名を記載するための一連の補正になります。マイナンバーカードに記載するための住基の改修ですとか、それに合わせてコンビニシステムを改修したりですとか、戸籍情報システムを改修するというものになります。それで、令和6年度のこちらの戸籍情報システム改修委託費につきましては、標準化に伴って全国的に統一するシステムにするための改修ということになりますので、マイナンバーカードに振り仮名を振るという、戸籍へ振り仮名を振るということではなくて、戸籍システム自体を全国的に標準化するためのシステムの改修費になります。

以上です。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 今まで戸籍はそのまま電子化をしていて別に問題なかったと思うのですけれども、なぜそのようなことが今行われなければいけないのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 茅原市民生活課長。

○市民生活課長（茅原節子君） 地方公共団体情報システムの標準化につきましては、それぞれの自治体が基幹業務システムを別々の自治体ごとに使っていたと。それを例えば栃木市のシステムは、TKCのシステムはTKCで、富士フイルムのシステムは富士フイルムのところだけとか、うちは使えるけれども、ほかのは使えない。書いてある場所が違ったりとか、形が違ったりとか、そういうシステムをそろえていかないと、全国的に同じ、住民サービスを向上させるためには全国に普及させるためにはそこをそろえていく、そのためだけにこれだけのお金がかかるということになります。

〔「全国で取れるようになる」と呼ぶ者あり〕

○市民生活課長（茅原節子君） はい。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 今まで戸籍というものは、自分で行って取るか、本籍地があるところに。

あと郵送で送ってもらうという形だったのですけれども、そろえることによって栃木市でほかの本籍地の戸籍も取れるということなのですね。

○分科会長（白石幹男君） 茅原市民生活課長。

○市民生活課長（茅原節子君） 説明が足りなくて申し訳ありません。そういうことではないです。

それは全国で取れるというのは、戸籍の複本をどこの市町でも見られるようにしたということなので、もうそれはできております。それ以外の、実際のシステムの形、その中身とか、そういうものをそれぞれのベンダーで使っている、表示してあるところが違ったりとかするので、そこをそろえるための標準化になります。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○市民生活課長（茅原節子君） 戸籍のほうは取れます。そのためのものではなくて、システム自体の改修です。標準準拠システムということの改修になります。

○分科会長（白石幹男君） 今月から取れるようになったのだよな。

大豆生田生活環境部長。

○生活環境部長（大豆生田雅志君） 戸籍につきましては、現在は各市町ごとにペーパーで持っているものを写真というか画像で他市のが取れるという状況になっているのですが、これを標準化して、いわゆるパソコンのデータとして標準化することによって、このマイナンバーカードのネットワークを使って、より便利な使い方ができるようにというような修正ということになるので、現時点で3月から取れるようになったものは、あくまでも戸籍といっても皆さんのパソコンの文字ではなく、戸籍のペーパーを画像化したものというのが取れるというのが現状です。これをさらに一歩進めるためには、いろんな、今、各市町ごとにデータの形が違っているようなものを統一的な形にして、それでやり取りできるようにしていくということだと思っておりますけれども、そのような状況でございます。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、今度は221ページなのですからけれども、これは去年まであった、大型バス運転手報酬約200万円あったのですけれども、これが消えているということはどのようなことがあったのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 福田環境課長。

○環境課長（福田欽也君） 会計年度任用職員で去年まで大型バスの運転手だったというのは、栃木

市の斎場で送り迎えをしていたのですが、令和5年9月30日をもって廃止になりまして、新斎場ではバスの送迎は行っていないということで、会計年度任用職員は削除されたということです。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

そのほか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） 223ページで、ごみ収集委託料が約5%上がっているというのは、燃料費が上がっているということでよろしいのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） ごみ収集につきましては、燃料費の増加分、あとそれと社会保険料等の人件費の増額分、あとは車両費も上がっているということで、そういったものを含めたものになっております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） これはずっと言われていることなのですけども、ごみ収集というものが独占的に行われていて、合特法、もう50年も前の話ですけども、これが生きている状態、この状態は変えていくべきではないのかなとは思っているのですが、そのことについてはどのように考えていますでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 今委員おっしゃるとおり、合特法もまだ生きているという状況もございます。また、平成19年度に台風被害があったときの各ごみ収集に対しての協力、そういったものもございまして、今は協定を結んで被害、災害があったときのごみ処理についての協力体制というのも組んでいただいているというような形がございます。当面今の形での契約ということで続けていかざるを得ないのかなというふうには考えておりますが、ただこういった委託の方法がいいのかという検討は続けていきたいと。その委託の方式につきましてもそうですし、随契であればその適正な価格などのこともきちんと整合性を持って契約をしていきたいというふうには考えておりますので、ごみ収集事業者との懇談会を定期的に開催しているところでございますので、そういったところで引き続き意見交換をしながら、こういった契約をしていくのがいいのかということをやっと模索していきたいとは思っております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 多分課題の一つなのだろうなと。しかも結構面倒くさい課題だろうなとは思っております。いつできるのかなとも思っていますが、そんな状態ですね。

次の質問に入ります。また課長にすることなのですけども、今度は衛生センターの管理業務費で、一番下になります。し尿を処理しているという状況で、管理運営委託費というものが約1割下がっているのですけれども、この変化の要因というものは何なのでしょう。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 委託費の中で固定費が年々減額になってきているということで下がっているということになります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 今まで衛生センターを建て替えますよというのが発表されるまであまり関心がなかったのですが、よく分からないのですけれども、委託先、受託先というものはどこなのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 管理運営は、月島 J F E アクアソリューション株式会社というところに委託をしております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） この管理の方法というものは、契約方法というものはどういうふうになっていますか。単年度なのですか、複数年度なのでしょう。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 包括業務委託を行っておりまして、5年間の長期継続契約になっております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 次の更新時期というものはいつなのでしょう。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 今現在の委託契約が令和7年度までということになっていて、次期は令和8年度からということになります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 新しく今度造り替えますけれども、順調にいくならば J V がそのまま取っていくという形になるのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 建設につきましては、またそこで入札というような形になりますので、そこはどういった処理方式の建物にするか、どういう建て替えをするかというところにも関わってきますので、今の委託しているところとの関わり合いがどういうふうになってくるかで、また委託と一緒に発注するとか、そういった方式にするかというのはちょっと今のところまだ、新しい施設の整備の方法が決まっていない段階なので何とも言えませんが、建物自体は、建設は別に入札というような形になる予定でございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） その下の衛生センターの施設整備事業費の中で、委託費で測量と基本計

画となっていますけれども、本年度900万円かけて構想をつくりましたよね。それは多分今佐野にお願いしているし尿を新しいセンターで受け入れて、それが賄えるだけのものを造りましょうという構想だと思うのですけれども、構想の段階で、この運営はどうしていきますよとかというもの、または建設方式ですね、先ほど言ったようにPFIを使うとか、そういうものとかというものは検討されていないのですか。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 今年度構想を策定しているところでございます。先ほど補正予算のほう、繰越しということで計上させていただきましたけれども、そちらのほうではどういった施設を造るかというところの検討をしているところでございます。処理方式、単独処理あるいは共同処理、単独処理であればどういう浄化方式を取るのかというような施設自体の在り方の検討をしているところでございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） ということは、基本構想自体がまだできていないということは、予定はどんどん遅れてきているという状況ですか。

○分科会長（白石幹男君） 糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） 今回繰越しさせていただいて、3月に策定するはずだったものを9月策定ということで、繰越しをするものでございます。その後、基本計画のほうを来年度から3か年かけて策定する予定でございます。この半年分の遅れにつきましては、その3か年の中で調整できるものというふうに考えております。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

そのほかありませんか。

糸井クリーン推進課長。

○クリーン推進課長（糸井孝王君） すみません。先ほど梅澤委員の質問の中でお答えした回答に誤りがありまして、予算書で125ページになります。125ページの余剰電力売却代等というところで内訳をお答えしたのですが、そこで余剰電力の売却代を1,770万1,229円とお答えしたのですが、これ誤りでございまして、正しくは1,749万1,140円と見積もっております。

以上でございます。

○分科会長（白石幹男君） 高久交通防犯課長。

○交通防犯課長（高久一典君） すみません。先ほど浅野委員からご質問いただいた件なのですが、岩舟線につきまして、私ちょっと間違った解釈しておりました。平日に佐野市のほうに乗り入れしていると。土日、祝日については運行をしていないと。逆のことを話してしまったので、その辺訂正させていただきたいと思います。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ないようですので、生活環境部所管の質疑を終了いたします。
ここで暫時休憩いたします。

（午後 3時07分）

○分科会長（白石幹男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 3時20分）

○分科会長（白石幹男君） 次に、保健福祉部所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の保健福祉部を御覧の上、所管部分をご確認いただき、
質疑をお願いいたします。

質疑ございませんか。

梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） 229ページなのですがすけれども、北部健康福祉センター管理運営委託料なのですが、これが9,481万8,000円なのですが、この内訳みたいなのはどうか。あと収入は幾らあるのかちょっと教えてもらいたいと思います。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） 北部健康福祉センターの予算の内訳ということでよろしいでしょうか。こちらにつきましては、指定管理制度を取っておりまして、その委託料と、あとそちらの施設を維持するための需用費となっております。

あともう一点、すみません。もう一度お願いします。

○分科会長（白石幹男君） 梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） 収入金額を。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） 財産収入のほうは……

○分科会長（白石幹男君） 利用料。

○健康増進課長（毛塚裕子君） 利用料ですね。すみません。ちょっとお待ちください。すみません。
ちょっと後ほど回答させていただきます。

○分科会長（白石幹男君） 梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） この指定管理料は9,400万円、約1億円払うのですがすけれども、主にどんなものに使われているのかちょっと教えてもらえればいいかなと思うのですが。かなり高過ぎるという感じ。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） こちらの施設につきましては、まずスポーツジム、トレーニングルームがありまして、そちらの利用と、あと温水プールなどがありまして、温泉水を利用して活用しているというところがあります。主な活用としてはそんなところになります。

○分科会長（白石幹男君） 梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） それは利用する方には利用料金をもらっているのですよね。だから、利用する方にはお金をもらっているわけだから、それらについてはやはり委託料から差し引くような感じで委託料って見ているでしょう。ちょっとこんなにかかるものかなというのがちょっと不思議に思ったのだよな。何とか改善策が、下げることはできないのかなと。ずっと1億円ずつ毎年毎年かかっていくような感じがするよね。それがちょっと。

○分科会長（白石幹男君） 首長保健福祉部長。

○保健福祉部長（首長正博君） 梅澤委員のおっしゃるとおりの部分のところで、まず指定管理料約1億円の中の大部分は人件費になります。当然ながら、そこで働く人、ちょっと明細は持っていないので、何人という形は今お答えできませんけれども、その職員の人件費、続いて光熱水費、これはもう水と電気、それらを常時使っている話ですから、かなり高額になってくるとい、そういう部分になります。お話しのように、利用料制度を取っておりますから、指定管理者が利用料を取って、その部分は指定管理の委託料から引いておりますので、その金額を引いた形になります。金額が高い部分のところ、ほかのセンターに比べて高い要素というのは温泉水を使っているという、そういう部分のところで、大平の健康福祉センターも基本的に8,000万円、9,000万円という、そういう金額がかかっています。そういうことがあるために、このまま全てのセンターを維持していくのが、今梅澤委員からも指摘あったように、本当に大丈夫なのかという部分のところは我々も懸念しておりまして、逆にそれぞれのところでの節約というよりは、全体のセンターの在り方、数をどう考えていくのだというところを真剣に考えなくてはならない、そういう時期になっているというふうに考えております。

○分科会長（白石幹男君） 梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） よく分かりました。私もそうだろうなと思っていたのですが、民間でやるのは利益を考えていろいろ温泉などを、そういうものをつくるのですけれども、市でやっているから、ただ持ち出しだということではなくて、民間の営業のほうも考えながら、やはりこれからなりふり構わず1億円、1億円というふうに出すのではなくて、収入が得られるようにちょっと考えていただければありがたいなと思っていますので、よろしくお願いします。

○分科会長（白石幹男君） 関連、松本委員。

○委員（松本喜一君） 今部長が温泉水を買っているのは指定管理者のほうで払っているのでしょうか。けれども、この温泉水って、民間から年間どのくらいで買っているのでしょうか。それとも量で買っているのかなと思うのですけれども、どうなのでしょう。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） すみません。温泉水の詳細についても、ちょっと後で回答させてもらいます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 指定管理料が出てきてはいるのですけれども、問題は利用率ではなくて利用者数というか、のほうだと思えるのですけれども、去年、今年、そして来年度になるので、それはどういうふうに見ていらっしゃるのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） 利用者の推移ですけれども、開設当時は令和２年ですが、年間7,724人でありましたが、令和３年には2万852人となっていて、令和４年が2万5,777人と増えてきております。指定管理のほうも、中でやる行事とか、そういうものを適宜チラシ等で普及しまして、利用者の応募をしたりとか、そういうことで施設を利用してもらうような取組のほうは進めているところでございまして、利用者数の増加を狙っているところもあります。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

川田副分科会長。

○副分科会長（川田俊介君） 217ページの生活保護費支給費なのですが、新聞で国のほうが昨年度の申請数が25万件を超えて過去最大の、去年よりも7.6%増ということだったのですけれども、栃木市の予算としては来年ちょっと1億3,400万円ぐらい減っているのですけれども、栃木市のほうは減っているのですか、昨年度の件数と今年度の見込みですか、何件ぐらいか教えてもらえればと思います。

○分科会長（白石幹男君） 江田福祉総務課主幹。

○福祉総務課主幹（江田 暁君） 生活保護の申請数、開始数なのですけれども、実数としましては、平成29、30年くらいから減少傾向にございました。令和４年度の実績として、開始数134世帯、今年度、令和５年度、４月から令和６年２月までの実績なのですが、144世帯ということで10世帯増えております。ただ、生活保護者数につきましては、廃止もございますので、令和４年度廃止が136世帯、令和５年度２月現在の実績で149世帯が廃止となっておりますので、実数的にはそれほど変わっていないというような状況です。

今回の、すみません、併せて予算の減額分につきましてちょっとご説明させていただきたいのですけれども、先ほど申しましたとおり、平成29年、30年をピークに多少、微減ではあるのですが、減少傾向にありました。ただ、予算額につきましては、新型コロナウイルスの影響がありまして、社会情勢がちょっと不透明な情勢が続いたものですから、予算額につきましては据え置きという形で、ここ数年計上させていただいておりました。実際新型コロナウイルスの期間、生活保護の申請数はそれほど伸びるということがありませんでした。これは恐らく各種給付金の制度ですとか、貸付金

のコロナ特例等があったということで、そういう影響もあって伸びなかったのかなというふうには考えているところなのですが、コロナ特例等が終わりまして、実際昨年、令和5年の夏ぐらいからやはり申請のほうは増加しているような状況でございます。ただ、先ほど申しましたとおり、生活保護世帯数はそれほど伸びておりませんので、今回コロナが5類になったということで、実際にちょっと精査をいたしまして、今回の令和6年度の減額というような形にさせていただきました。

以上になります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 関連でということで、特徴的なことってありますか。コロナの前と後で、例えば若者が増えただとか、単身世帯は前からか、高齢の世帯の申請が増えているとか、そういう特徴的なことってありますか。

○分科会長（白石幹男君） 江田福祉総務課主幹。

○福祉総務課主幹（江田 暁君） 特徴、そうですね、全国的に言われているのですが、高齢者世帯が非常に増加しているというような状況で、実際生活保護世帯の半数以上が高齢者世帯というような形になっております。それから、これは数字で取っているわけではないのですが、今年度は特に病院から、病院に担ぎ込まれたと。身内の方とか、そういう関わりのある方がいないということで病院のソーシャルワーカーから連絡があって、窮迫状態ですということで生活保護開始というのが今年度多かったというような肌感でおります。

以上です。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

そのほか。

浅野委員。

○委員（浅野貴之君） 189ページの戦没者遺族等補助金に関連してなのですが、追悼式、昨年は大変有意義な追悼式であったと思いますが、どうしても遺族会、高齢化していますし、特定の方だけの参加者になっていた。中学生の報告なんかもあって大変よかったのですが、より多くの方に参加してもらって、戦争の悲惨さを理解してもらうということが必要だと思いますけれども、周知の方法も含めて新年度はどのようにお考えでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） お答え申し上げます。

戦没者の合同追悼式につきましては、昨年10月24日に開催いたしまして、招待者含め100名から200名という形でありました。どうしても遺族会と市の共催ではございますが、参列される方がどうしても高齢の方が多いと。今回につきましては、平和記念事業に行っている中学校2年生の方をお呼びして、若い方の戦争に対する気持ちというものをお話ししていただいたという経過があります。

来年度、令和6年度につきましては、10月29日に予定をしております。中学校の方、また今年の2年生とは違う、今1年生ですが、新たに2年生になって平和記念事業に参加する中学生もおります。今、4月に校長会が開かれますので、各校長先生に、部活の時期とか大会の時期がちょうどその頃あるということなので、調整をさせていただいた上で、今年と同じような形で開催させていただきたいと思いますし、一般の方に対しても、広報等を通じて、こういった慰霊祭があるので参加をしてくださいというような周知等も含めて、周知のほうはしていきたいと思っております。

○分科会長（白石幹男君） 浅野委員。

○委員（浅野貴之君） 鋭意工夫をしていただいて、様々な世代の方に参加していただける工夫をしていただきたいというふうに思います。

続けてよろしいですか。

○分科会長（白石幹男君） はい。

○委員（浅野貴之君） 221ページの急患センターの管理運営委託事業費について、これは部長に伺いたいのですが、令和6年度、そろそろ急患センターも開設者としては、古くなってきましたし、建て替えの必要性も出てきたのではないかと思いますけれども、新年度の取組についてはどのようなになるでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 首長保健福祉部長。

○保健福祉部長（首長正博君） 今年度について1回、2月に急患センターを取り巻く関係者、医師会、それとメディカルセンター、2つの大学病院、消防、県、壬生町、それらの関係者が集まりまして、今後この急患センターの在り方について十分検討を深めましょうというような、そういう確認の会を持ちました。その確認の会の中で確認取れたことは、やはり施設の老朽化も進んできているので、来年、再来年ぐらいまでにはある程度建て替えの方向性というものを見いだしていきたいというような部分の確認が取れたところになります。ただ、その際に難しいのは、急患センターの規模をどの程度にするのか。その会議の中でも急患センターの中に外科は要らないのではないのかというような意見であるとか、あるいは歯科、歯医者さんに入ってもらったほうがいいのではないのかというような意見であるとか、様々な意見が出ておりますので、それらを集約するためには若干時間が必要かなというふうに考えています。

ただ、いずれにしても、急患センターそのものというのは市が設置をしていく形になりますが、市が医師を雇って運営していくというのはなかなか難しい部分がございますので、医療関係者と十分協議しながら今後の将来性を決めていきたいというふうに考えております。

○分科会長（白石幹男君） 浅野委員。

○委員（浅野貴之君） あと1点だけ。医師会の先生方、大変お世話になって回しているわけですが、どうしても高齢化していますし、当番医の先生を見ても、半分ぐらいは大学に頼っているという状況です。特に小児科、夜間受け入れてもらえる民間がない、クリニックがないので、どう

してもそこを頼らざるを得ないわけですがけれども、小児科をぜひ充実していただきたいと思いますけれども、その辺のお話というのは出たのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 首長保健福祉部長。

○保健福祉部長（首長正博君） 診療科の話の中で小児科の話も当然出ていますが、急患センターの機能強化も当然必要ではあるのですが、私、小児科は、やはりとちぎメディカルセンターに機能強化をしていただきたいと思いますと思っておりまして、現在メディカルセンターと小児科の機能強化については十分話し合いを持っているところでございます。なかなか小児科医師の確保は難しいのですが、ある程度、来年、再来年ぐらいにはいい方向性でのお話ができるかなというふうに思っておりますので、もう少しお時間いただければと思います。

○分科会長（白石幹男君） 浅野委員。

○委員（浅野貴之君） ぜひ期待をしたいと思います。よろしくお願いします。

もう一点いいですか。

○分科会長（白石幹男君） はい。

○委員（浅野貴之君） 健康増進なのですが、大丈夫ですか。223ページの新しい事業で、6歳児の来院型のフッ化物塗布が始まるということで、雨宮議員からも質問がありまして、これは来院型ということで、個別に受けていただくということでメリットがあるかと思います。いい事業だと思いますけれども、一方で、集団から個別に切り替わったので、どうしても予約の手間だったりとかということで受診率が下がるのではないかと危惧されるところもありますけれども、もし受診ができなかった世帯に対する勧奨とか、そういう対策というのはどのようにお考えでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） こちらの事業は、来年度の事業になりますので、現在考えているところとしてお答えしたいと思います。まずは6歳になる年のお子さんを対象にするということで、誕生月の1か月ぐらい前には個別通知を発送する予定になっております。そのほかに市内の子供さんが通うようなこども園とか保育園、保育施設、それから薬局等、今後周知先はまだ検討も必要なのですが、受診に促す歯科保健、ほかの妊産婦歯科健診とか、2歳児歯科健診などもあります。そういうものと併せてポスターを掲示したり、それから年間通してまた再勧奨ということで周知のほうは図っていく予定は考えております。

○分科会長（白石幹男君） 浅野委員。

○委員（浅野貴之君） 個別に再勧奨するとか、そういう考えはないのですか。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） 予算の関係もありますので、その辺は状況を見ながら検討していきたいと考えております。

○分科会長（白石幹男君） 浅野委員。

○委員（浅野貴之君） 6歳という大切な年齢でのフッ化物塗布ですので、虫歯の予防、口腔の健康を守ることです。しっかりやっていたきたいと思います。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 医療関係ということで同じ、これは221ページに戻りますが、メディカルに5億円を貸し付けていると。そして毎回返してもらっているのですけれども、コロナのときはかえって来院者が少なくてもお金が入っているのですけれども、コロナ明けてからの経営はちゃんと返してもらえるような状況なのかというものは分かっていますか。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） お答え申し上げます。

運転資金の今後につきましては、メディカルセンターの経営が安定するまでと考えているところですが、コロナによる受診控え、令和4年度の経営状況では、受診控えやクラスター発生による入院制限、その一方で、今委員がおっしゃったように、コロナ入院患者受入病床確保の補助金を得た結果、黒字になったとの報告を受けておりますが、コロナが逆に5類に引き下げられたことによって補助金の支援が継続的に続くことが難しいということも想定されております。当初の頃、預金残高が少なかったため、人件費の支払い等で定期的にキャッシュアウトしてしまう部分があることから、年度当初に5億円入れて、年度末に5億円返していただくという形で循環させていただいているところがあります。補助金を除いた預金額が約6億円ということで聞いておりますが、さらに預金額が増えて循環できるようになっていけば、5億円の貸付けは不要になっていくと考えておりますが、それが今すぐそういう形になっているかどうかというのは、また経営状況を伺っていないところがありますし、伺っているところでは、年明けにメディカルのほうでやはりコロナ関係でクラスターがまた出ていたということもありまして、経営状況の様子を聞きながら、その辺は判断していければと考えております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） コロナが始まる前は、ほんの少しずつですけれども、伸びていたと。コロナになって落ちるのかなと思ったら、逆に上がったと。今度はコロナが終わったからどうなるかというのはどういうふうに考えていらっしゃいますでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 首長保健福祉部長。

○保健福祉部長（首長正博君） コロナが始まる前、順調に伸びてきたと。今委員おっしゃったとおりです。コロナが始まってから、実際の外来、入院の数は減りましたが、コロナについての、いわゆる助成金が別途出るという部分のところで全体の収支は改善をしました。今度はその助成金がなくなりますので、患者がコロナ前に戻らなければ経営的にはまた厳しい、そういう状況になっていくという形になります。令和5年、今年度については、9月までは少しですけれども、補助金、助成金が出ました。ただ、10月以降に助成金が減りましたので、基本的には今年度の経営の部分のと

ころは、単年度で見ると非常に厳しい状況だというふうに私は認識をしております。

そういう中で、ただそうはいっても、ではこの5億円が返せないとか、すぐ経営困難になるとか、そういうレベルではありません。基本的にはある程度の厳しい経営状況下ではあるけれども、そこには耐えられるだけの体力はついてきているというふうに思っていますし、ただ一時的にどうしても給料の支払いの時期と、診療報酬の入ってくる時期が異なりますので、一時的に運転資金が、経営的には大丈夫なのだけでも、その場で瞬間風速的にお金が足りなくなるという、そういう時期のためにこの貸付けをしていますので、今度は貸付けしなくてもいいように預貯金とか体力がもっとつくような、そういう部分のところに何とか持っていきたい。そのためには患者をきちんと増やしていくと。入院患者を特に増やすと。そういう取組というものについて市のほうも相談しながら、経営安定の部分のところにについても少し考慮しながら進めていきたいというふうには考えております。

○分科会長（白石幹男君） 青木委員。

○委員（青木一男君） 189ページ、福祉タクシー料金助成事業費です。これは主要事務事業にはなっているのですが、令和5年度より令和6年度予算が12%増加しています。その要因をちょっとお聞きしたいと思います。

○分科会長（白石幹男君） 鈴木障がい福祉課長。

○障がい福祉課長（鈴木正之君） すみません。先ほどの質問は、コロナ前ではなくて……ごめんなさい、すみません。

○委員（青木一男君） 令和5年度と比較しまして、令和6年度の予算が12%増えていると思うのです。その要因、原因、なぜ、ただ高齢者が増えたという要因だけなのか、その辺をちょっと。

○障がい福祉課長（鈴木正之君） 失礼しました。これに関しては、コロナの時期に一時期、コロナの前の年が結構数多くて、その後がぐんと下がった時期がありました。コロナのときに、次の年にぐんと下がった状態でありました。その後、徐々に、徐々に戻ってきておりまして、伸び率なんかを考えると、今回のところでもう少し伸ばしておかないと予算的な部分が足りなくなるのかなというふうなところで今回を増やしている状況であるというところですよ。

ごめんなさい。あとは、もう一つ要因がありまして、今回要綱のほうを改正するのです。要綱改正がありまして、来年度、令和6年度から今まで上限を2枚で1,000円までしか使えないということにしていたのですが、今回市民の方からの要望とかを受けまして、内部で検討した結果、4枚まで使える形に、1回の上限で4枚まで使える形にします。それなので、その分の伸びが考えられるのかなというところでの予算取りという形になっています。

以上です。

○分科会長（白石幹男君） 首長保健福祉部長。

○保健福祉部長（首長正博君） 今、課長の説明のとおりなのですが、全体枚数は変わりません。た

だ、1回当たりの利用枚数がこれまで2枚という上限がついていた部分のところを4枚にこれからします。それはなぜかという、実は通院の機会にこの券を使っている方というのは非常に多いらしいのですが、通院の回数がコロナになってから減っています。お医者さんが薬を出す期間等を少し長めに設定するということで、これまで2週間に1回通院していた人が1か月に1回の通院で済むというような、そういう状況というものも生まれてきておりますので、そうなるかと、せっかくタクシー券を交付したのだけれども、実際ほかの外出の機会になかなか使えなくて、タクシー券を持ち越して、結局使わないでそのままになってしまうという方もいるというような、そういう部分のところの話も聞いておりまして、せっかく24枚と限られた枚数ですけども、交付していますから、それを有効活用していただくという部分のところの観点も必要かということでのそういう見直しということでもありますので、なかなか予算的に枚数全体を増やすわけにはいかないのですけれども、ちょっと使い勝手とか、そういう部分を少し工夫させていただいたという形になります。

○分科会長（白石幹男君） 青木委員。

○委員（青木一男君） という理由であれば分かります。65歳から80歳までは通院が4回以上でないと利用できませんよね。ですので、その人たちも多分、部長が言われましたように使い勝手がよくなるのではないのかなというふうに思います。私はすばらしい取組ではないのかなと思います。

以上です。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 293ページ、藤岡の地域活動支援センターと都賀の地域活動支援センターの利用状況というのをまず教えていただいて、見込みというものを教えていただけますでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 鈴木障がい福祉課長。

○障がい福祉課長（鈴木正之君） そうしましたら、まず藤岡のほうからお話申し上げます。

1日当たりの利用人数というところなのですけども、まず登録者に関しては、令和3年のときに14人で、それ以外、例えば令和元年から令和4年まで通して登録者というのは12人というふうに変わっていないのです。1年間だけちょっと人数多かったのですけれども。1日当たりの利用人数というところに入りますと、1日当たりが大体多いときで3.9人、少ないときですと2.4人とか、そういう時期もありまして、今現在が令和4年度の状況ですと1日当たり3.68人の利用というふうなところになっております。

あともう一つ、都賀のほうに関してなのですけども、こちらのほうはもうちょっと登録者が少なく、令和元年から令和2年にかけてが登録者が5人、それで令和3年、令和4年と続けて1人減って4人という形になっています。1日当たりの利用人数ですと、こちらはもうちょっと少なく、令和元年のときには2.36人、その後は1.幾つになってしまいまして、令和4年ですと1.97人と

いうことで、2人を切っているような状況にあります。

やっている事業内容というところは、藤岡にしても都賀にしても同じようなことをやっているのですが、そのような状況になっておりまして、ここはやっぱりどうにかしなくてはいけないなというのがあります。都賀に関しては、前に議員研究会なんかでも少しお話を申し上げたところではあるのですが、廃止の方向で話を進めております。藤岡のほうについては、藤岡地域というところが周りにそれほどあまり福祉事業所、福祉施設というところが少ないものですから、ちょっとここを今すぐに廃止の方向に持っていくというのが少しちゅうちょする部分ではあります。ですので、例えば藤岡については、なかなか周りに施設ができないという状況がありますので、例えば移送関係を利用して、違う地域に行っていただくというようなことも一つ考えられるのかなというのがあるのですが、その辺りを今ちょっと研究しているところですので、藤岡についてはもう少し今のままの状態にはなってしまうのですが、継続した形での利用を進めていきたいというふうには考えております。

以上です。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） すみません。先ほどの質問に対しての回答をさせていただきたいと思います。

北部健康福祉センターの年間利用料の合算額で出しますと、令和5年度で、1月までなのですが、659万560円となっております。

それから、温泉水ですが、こちらは令和4年度の実績になりますけれども、年間約559万円となっております。

すみません。施設の利用料、個別ごとになりますと、例えばお風呂、トレーニングルーム、あと年齢層などによっても金額がそれぞれありますので、全体をまとめたの利用料でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○健康増進課長（毛塚裕子君） ありがとうございます。

以上です。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 193ページで、一番下、老人福祉施設等整備事業補助金ということで、ここら辺はどこの事業者なのでしょう。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） お答え申し上げます。

こちらの老人ホームにつきましては、繰越しのときにお話しいたしたと思いますが、大平のグループホームの高柳会になります。それから、地域密着型の特別養護老人ホーム、これは栃木老人ホ

ームが新たに造る特別養護老人ホーム、それと併設して造る養護老人ホームの3つとなっております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） この3施設、一番初めのはグループホームなので、これからまたこの補助金というものは増えていくのでしょうか。この施設に対して。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） これは開設準備の補助金、それから施設の整備補助金ですので、この施設に関して出るのはこれだけになります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 栃木老人ホームというのは、今あそこのあずさが、公民館の横に造っているやつですよ。それが補助というものが幾らか分からないけれども、数千万円程度の補助で済むということなのですか。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） こちらの補助金については、県の補助金でありまして、そのほかに一体的に、特別養護老人ホームと養護老人ホームをあずさの里は一体的に造るわけですが、養護老人ホームのほうに市の財源として1億円の補助を出すというような形になっております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、あずさに対してというものは1億円と。これ以外に1億円ということではよろしいのでしょうか。高柳会のほうに関しては、幾らなのかまだ聞いていないのですけれども、それと、それ以上あるのかというものをお願いします。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） まず、高柳会のグループホームでございますが、高柳会グループホームにつきましては、施設整備補助金として3,360万円になります。

それから、養護老人ホームについては、先ほど市単独の補助金がうちから出るものとしては単独で1億円というもの、それから併せて造る地域密着型の特別養護老人ホームのほうに2,600万円ほどの補助金が県から出るというような形になります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 195ページが一番上、緊急通報装置なのですけれども、これはお年寄りの方がいざというときのことで、10年ぐらい前までは結構需要があったかなという気がするのですが、この金額が下がっているというものは、その要因というものは何なのでしょう。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） 委員おっしゃるように、10年前、平成26年ですと、その緊急通報装置の設置台数につきましては482台でした。年々緊急通報装置が下がってくる原因としまして、ス

スマートフォンであったり、ほかのメディアを使つての通報装置ができているというところもありまして、実際今、令和５年度でございますが、設置台数については174件というふうになっておりますので、その関係上、予算上も少なくなってきたというふうなところであります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 確かにそういうスマートフォン関係またはＩＴ関係のものが出てきたなというふうには思っているのですが、ある意味そちらに栃木市も乗り換えではないですけれども、これ旧態依然なので、電話が、オペレーターがいると思うのですが、そういう形ではなくて変えていくという方向……金額が下がっているのは件数が下がったからなののでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） 金額が下がったものにつきましては、今緊急通報装置については安全確認のセンサーがあるものとないものと２種類の緊急通報装置を貸与しております。１か月当たりの金額がセンサーなしのものは1,617円、センサーありのものは2,277円というふうな形での貸与になっております。これ掛ける今年度で言うと174名分の12か月分というふうになりますので、設置台数が減れば支出金額も下がっていくということで、この予算上の減という形になっております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） ちょっと計算はしていないのですが、今年度が570万円なので、予算がですね。来年度が360万円ということは３分の２になるという形なののでしょうか。それは装置の値段が変わったからなのか、それとも利用者数が減ったからなのか、どちらなのでしょう。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） 利用者数が減ったことによる減でございます。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、今度は同じページの一番下なのですが、地域包括支援センター、運営費が下がってきているのですが、これは下げるわけにはいかないのだろうなと思っているのですが、事情というものはどういう事情なのでしょう。

○分科会長（白石幹男君） 江面地域包括ケア推進課長。

○地域包括ケア推進課長（江面健太郎君） 総合相談事業の地域包括支援センター運営負担金のことかと思いますが、こちら社会福祉士４名分ということで計上しておりまして、令和６年度、来年度につきましては、社会福祉士の１名分の派遣が、派遣元の事情で減るということで、その分の１人分の社会福祉士の派遣負担金が減となっております、それにつきましては会計年度任用職員のほうで手当をさせていただいていると、そういったことでございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 次ページの、今度２段目の包括的継続的ケアマネジメント支援事業の中

で地域包括支援センター運営負担金とあるのですけれども、地域包括を運営していくと。こっちはお金下がっていないのですけれども、この関係というのはどういう関係なのでしょう。

○分科会長（白石幹男君） 江面地域包括ケア推進課長。

○地域包括ケア推進課長（江面健太郎君） 197ページの包括的継続的ケアマネジメント支援事業費の地域包括支援センター運営負担金につきましては、専門職3職種のうちの、こちらはケアマネジャーの派遣負担金でございまして、こちら5名分ということでの計上でございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 地域包括というものは、ケアマネと保健師と社会福祉士のセットでいなければいけないということなののですけれども、事業別が分かれているということは、地域包括支援センターの運営というよりも、ほかのところからお金が来て、それを地域包括に使っているという形なのですか。

○分科会長（白石幹男君） 江面地域包括ケア推進課長。

○地域包括ケア推進課長（江面健太郎君） お答え申し上げます。

地域包括支援センターに配置する3職種につきましては、それぞれ3職種の専門に応じて求められている、期待されている業務がございまして、例えばこの包括的継続的ケアマネジメントであれば、こちらはケアプランの作成といったところが期待されているということになりますので、こちらについてはケアマネジャーということで整理をさせていただいております。総合相談事業、前のページのところであれば、社会福祉士が権利擁護の関係とかの相談に応じて業務を進めていくといったところで、そういった専門職の職種別にまずは予算を整理させていただいていると。そこに国、県、財源の負担割合に応じて予算を組んでいるといったところでございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） そうしたことなのかということで、これは10ページの債務負担行為、上から6段目に国府地区の地域包括支援センターを、これは委託すること、そういう方向であるということよろしいのですか。

○分科会長（白石幹男君） 江面地域包括ケア推進課長。

○地域包括ケア推進課長（江面健太郎君） 5年間の委託を考えております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） その予算というものは、これはこの令和6年度の予算にはのらないということよろしいのですか。

○分科会長（白石幹男君） 江面地域包括ケア推進課長。

○地域包括ケア推進課長（江面健太郎君） 令和7年度からの委託ということで、令和6年度中には契約の事務、入札を想定しておりますけれども、その入札を行うための債務負担行為の設定を令和6年度に計上しております。実際の委託料については令和7年度の予算ということでございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 民間委託がいいのかどうかというのがちょっとあるのですけれども、それはこの予算書ではないということなので。

同じページの中段、さくらホーム管理運営費と小野寺ふれあい館の運営費ということでお金がついているのですけれども、解体するのですよね。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） まず、さくらホームでございますが、さくらホームにつきましては、昭和47年の建物でございます。こちらさくらホーム、今現在シルバー人材センターが残っております、ほか小倉堰土地改良区につきましては、11月に移転をしました。それから、西方地区で趣味のクラブ活動をしている婦人グループがありますので、そちらについても3月いっぱいに移転することが決まっております、今般道具の搬出等を手伝ったところであります。来年の1年間につきましては、まだシルバー人材センターがさくらホームには残りますので、その関係上、光熱水費、そういったものが残るということで、さくらホームはまだ来年度は解体にはなりません。

続きまして、小野寺ふれあい館でございます。小野寺ふれあい館、本日の常任委員会のほうで条例廃止、用途廃止ということで上程させていただいたわけですが、ふれあい館につきましては、用途廃止は我々の任務でそこまで廃止するのですが、今後その小野寺ふれあい館を解体するのか、あるいは譲渡、売却するのかというものに関しては、管財のほうに所管を移しまして、そちらで今検討をしているというような最中でございますので、このさくらホームの44万1,000円というのも、ここ投票所になっているというお話を常任委員会のときにもさせていただいた、ごめんなさい、小野寺ふれあい館ですね、小野寺ふれあい館は投票所にもなっているので、万が一投票があった場合というようなことで、来年7月ぐらいまでは電気を止めないような形、あるいは消防設備等を止めないような形ということで71万1,000円の予算が取ってあるということで、2つとも用途は廃止なのですが、いかなう理由によって若干の光熱費が取られていると、そういう状態でございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） そうですね。では、条例で用途は廃止されるのですけれども、そうなる管財のほうになって、そうでないさくらホームのほうは、うちがまだ持ち続けていくということですね、分かりました。

それでは、223ページのほうに移りたいと思うのですけれども、上から4番目、健康マイレージ事業なののですけれども、ちょっと最近評判がよくないので、やめるか、思い切ってリニューアルをする必要があるのではないのかなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） 評判というところでは、ちょっと難しいところがあると思うのですが、年度末になりまして、マイレージを、ポイントをためていただいた方が応募していただい

るところがやっぱりあるのです。最近ですと、学校の寄附という形で、それに使ってくださいというような方もいらっしゃるし、そういうことも考えますと、すぐ縮小とかというよりは、まだちょっと検討しながらということで、どういう形がいいかということは進めていきたいと思っています。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 多分悪いことではないと思うので、今の時代に合った形にやっていけば、多分よくなっていくのかなというふうには思います。

225ページの上から3段目、PCR検査事業費で、これをいつまでやっていくのかなというふう
に思っているのですけれども、栃木市の見解はどうなのでしょう。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） こちらにつきましては、コロナウイルス感染症が5類になりまして、来年度から予防接種も定期接種化ということになっていきます。ただ、感染しやすい、重篤化しやすい高齢者、その方々がいらっしゃる施設とか、そういうところで感染症が発生した場合に、それ以上蔓延しないようにとか予防対策のために行うということでのPCR検査の予備的な費用としては残していく予定を考えております。

〔「そういうものなのですか」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） 縮小していく予定でおりますが、現段階ではまだ現状コロナウイルス感染の予防接種なども終了は3月末までということでやっておりますので、感染状況を踏まえながら検討していきたいと考えております。

○分科会長（白石幹男君） 首長保健福祉部長。

○保健福祉部長（首長正博君） 基本的にはPCR検査はやめます。ただ、施設等にキットを配布するという事業は、やはり施設等でキットでまず簡易に確認したいという要請がまだ強い部分がございますので、クラスター等が発生した場合のキット配布というものについては若干続けていく必要があるのかなというところで、今回少しキット配布分ということで、この予算は措置をさせていただいているところでございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 分かりました。その範囲というものは児童、高齢、障がい者施設というイメージでいいのですか。栃木市が管轄している。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） 令和6年度につきましては、高齢者施設、障がい者施設というところで考えております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 229ページの保健福祉センター管理運営費の中の電話料というものが300万円使っているのというところなのですけれども、実際何に使われているのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） 電話料の内訳になりますか。こちらですけれども、こども家庭センターが4月から開設に当たりまして、センターへの付け替え分ということで費用のほうがここに含まれております。

〔「それが300万円」と呼ぶ者あり〕

○健康増進課長（毛塚裕子君） はい。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 前、電話料でと言いながら何百万円もついていて、これ違うだろうと言ったら、本当違いましたというのでなくなってきたので、電話料というものはなくなったのかなと思ったら出てきたのですけれども、項目と内容が、金額が違うということがよくあったのですけれども、それは議会の指摘で直ってきたかなと思いますが、でも今の話だと電話料ではなくて、しかもこども家庭センター側の費用をこちら側で出しているという形なのですか。

○分科会長（白石幹男君） 毛塚健康増進課長。

○健康増進課長（毛塚裕子君） 説明が足らなくて申し訳ありません。電話料は健康増進課の2階の事務室に収まりますので、健康増進課分とこども家庭センター分の電話料ということになります。それなので、昨年度よりも増額になる状況になっております。

○分科会長（白石幹男君） そのほかございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） 質疑はないようですので、保健福祉部所管の質疑を終了いたします。
暫時休憩いたします。

（午後 4時19分）

○分科会長（白石幹男君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 4時30分）

○分科会長（白石幹男君） 次に、こども未来部所管の歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表のこども未来部を御覧の上、所管部分をご確認いただき、質疑をお願いいたします。

質疑はありませんか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） 199ページの真ん中辺りで学童保育事業とあるのですけれども、結構額

的には伸びているのですけれども、利用者数の見込みというのは今年度と来年度、どういうふうに見ていらっしゃるのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） 今年度の利用者数、その時期によって変わってくるのですけれども、6月末のデータを一つ持っておりますので、そこが利用者数1,471名で、来年度の申込み状況でございますけれども、利用者数が1,534名ということで増加の傾向にございます。もちろん西学童1つ増えるという部分もありますので、利用者は増えております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 子供の数自体は減ってきていると。でも、利用者は増えてきていると。もしもそういう学童という器があるならば、まだ増えていくという方向、そういう見立てですか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） 子供の総数自体は減少傾向ではありますがけれども、親御さんが両親共働きという世帯が増えておりまして、学童保育を利用したいというニーズは増えております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） それで大平第2とか、あと民間とかつくっているのかなという気もしないでもないのですけれども、そのニーズに対しての対応というものはどのように取られているのですか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） まず今年度、今、内海委員おっしゃられましたように、大平西のほうで学童保育施設1つつくりました。そこは子供の数自体が今ちょっと増えているというのもあります。大平西小学校。そこで1つ増えておりますのと、あと栃木地域辺りがニーズが高くて、若干ニーズに応え切れていないというようなところもありますので、民間の学童保育事業所のほうで整備するという話が出ておりますので、それを支援するという形で来年度補助金ということで設定しております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） まだまだなのかという気がします。

同じページの下から4事業目、子ども・子育て支援事業計画策定事業費なののですけれども、これは一体何を、書いてあるけれども、主要事務なので。目的としているのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） まず、子ども・子育て支援事業計画というものが今年度で計画期間が終わります。その策定と、プラスこども計画、子供に関する施策を栃木市としてどういうものやっけていこうという、そういったものを定める、これは努力義務なののですけれども、定める予定になっておりまして、それを併せて来年度策定していくというふうに考えております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 同じ予算が今年度ついていると思うのですけれども、250万円だったかな。それなので、そこで報告書とかが上がってくるのではないのかな。方向性ってそこで決まるのではないのかなと思うのですけれども、その関連性というのはどうなのですか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） 今年度につきましては、ニーズ調査とアンケート調査をやっておりまして、その分析までしてですけれども、それに基づいて来年度計画そのものを策定するという予定をしております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） それは、こども家庭センターとかにもつながってくるものなのですか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） 当然子供に関する施策をつくっていくという計画ですので、こども家庭センターにも影響、影響というか及ぶものでございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、201ページの真ん中で民間保育所一時預かり事業補助金ということで、これも金額ががんと上がっているのですけれども、やはりそれだけのニーズがあるという見立てなのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） こちらにつきましては、やはりニーズがございます。12月補正で2,100万円ほど増額をさせていただきまして、その辺を踏まえまして当初予算のほうを増額という形で行っております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） この一時預かりというものと、たしか去年、今年度だけれども、未就園児の対象の事業もやりましたよね。

○分科会長（白石幹男君） モデル事業。

○委員（内海まさかず君） モデル事業、それとはまた違うものなのですか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） だれでも通園の公的事业かと思えますけれども、そちらとこちらはまた別のものになります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、同じページで、下から5段目として、民間保育施設整備補助金という、これはいまいずみ保育園だよね。前回もお金についてはいたのですけれども、たしか繰越しになっている。事業的に大丈夫なのですか、この事業。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） こちらにつきましては、常任委員会のほうで繰越しということでお諮りしたところなのですけれども、2年間の事業ということで、本来ですと補助金の総額的には2億6,000万円ほど当初ございます。最初、工事の進捗率を令和5年度を60%、令和6年度を40%ということで設定をしていたのですが、それが工事の進捗の中でそれを今度、やはり令和5年度は40%を見込みまして、令和6年度に60%ということで、その割合をちょっと変更したというのが、先ほど補正減をして繰越明許ということをお願いした部分でございます。補助金の総額等も変わらないのですが、工事のほうも今行っておりまして、工期が12月までとなっております、事業的には進捗しているのかなというふうに考えております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 令和7年の4月開園ですね。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） さようでございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） つまりもう1年しかないのですけれども、計画的に順調にいつているのですか、この計画。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） やはり12月完成ということになっていまして、事業所のほうとも情報は共有させていただいているのですが、今のところ計画どおりに進んでいるというふうに認識はしております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 終期が決まっている事業なので、この事業は。きちんとやってもらわないとは思いますが。

同じページ、下から2段目です。保育対策総合支援事業、特別保育事業推進補助金、これが先ほどの補正で言ったやつなのかなというふうに思うのですけれども、この内容というものはどんなものなのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） この保育対策総合支援事業補助金につきましては、この中に幾つかメニューがございます。その中で、保育士の宿舎ですか、アパートですか、そういうのを借り上げた場合に、それに対して補助を出しますよというメニューとか、あと保育体制強化事業というのもございまして、保育士の資格のない方が、その保育士のサポートといいますか、保育支援者として、例えば園外活動中の支援をするとか、そういう人を配置した場合に補助を出すとかというメニューがございます。それとか、ICT化とか、幾つかメニューがございまして、保育環境の改善とか、そ

ういのにも対応するメニューとか幾つかございまして、やはり所要額といいますか、調査をする中で、やはりこの事業というか、補助を受けて取り組みたいという保育園が増えてきているというふうな状況でございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） そういう事業だったのですね。確かに毎回ありますよね、その事業というのは。それが2,500万円から倍、3倍に上がっている、そのぐらいの需要が出てきているということなのですか。何施設、これ応募というのかな、予定されているのですか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） こちらにつきましては、令和5年度の当初予算では2,500万円ほどなのですが、やはり需要が多いということで、12月補正で増額しまして3,400万円ぐらいになっています。それからしても増額なのですが、やはり先ほどご説明しました宿舍借り上げ事業とかも、5つの園だったのが7つの園が申し込んでくる。当然園だけの話ではなくて、先生とかの数とかもあるのですけれども、それとか、先ほど同じく説明しました保育体制強化事業、保育士の資格を持たないのだけれども、支援をしてくれる人、やはり保育士がなかなか集まらないというのも要因にあるかと思うのですが、そういう方を配置するという園がありまして、そこが3園から8園に増えたというところがございます。このようなことから、やはりちょっと大幅に増額しているというふうな状況でございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、次ページの203ページになりますけれども、真ん中の児童手当または児童扶養手当、子供の数が減っているから額も減っていると、そういう見立てでよろしいのですか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） さようでございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） その減り具合というものはどの程度と見ていらっしゃるのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） ちなみに児童手当、一番対象となる子供が多いものですが、そこを一つ例に挙げさせていただければ、令和2年度につきましては1万274人のお子さんが対象となっておりました。それが令和3年度は1万34人になって、令和4年度が9,614人、令和5年度の直近の数字ですと9,235人ということで徐々に対象となっているお子さんが減っているということです、全体的に子供が減っているので、予算的にも減っております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） その下の、下から2段目の母子・父子自立支援事業費ということで、こ

れの金額が上がっているのですけれども、対象者が増えているということなののでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） この事業につきましては、母子家庭、父子家庭に対しての自立支援給付費とか、高等職業訓練促進給付費というようなことで支給しているものですが、今年補正予算で増額させていただきましたが、利用される方がちょっと増えましたので、それで増額させていただいているところです。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 対象者の方はずっといらっしゃると思うのですけれども、その方がこのサービスまでたどり着けるというもの、それができてきているというふうな感じなののでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） これは相談の中で、このニーズを把握して、こういうものを使えますよということでアプローチをさせていただいて、実際に例えば学校に行って自分で資格を取るための勉強をしたいというようなことですが、そういうふうに結びつくケースがちょっと増えたということになります。対象者につきましては、当然学校に行くものですから、卒業すれば今度はこの対象から外れていくので、その資格によっては年数とともに卒業する方、新しく利用する方というのが、出たり入ったりというような感じで、ちょっと増えたということになります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、205ページで、今度は一番下、こどもサポートセンター管理、これなくなるのですよね、来年度には。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） こどもサポートセンターとしての機能はなくなりますけれども、建物はまだ少し残っておりまして、先ほどの委員会でも申し上げましたが、倉庫として取りあえず使わせていただきます。処分するまでは。ですので、最低限の管理費が必要かなというのと、あと例えば敷地内の草をちょっと管理しないと近隣の方に迷惑をかけてしまいますので、そういった管理費を見込んでおります。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） それで270万円ですか。1か月20万円も何もしないでかかってしまうというのが現状なのですか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） 当然使っていたときよりは減るのですけれども、電気代ですとか、あと警備を委託していますとか、そういったものがあります。それと200万円で見ているうちの一番大きいのが、実は100万円ちょっと、除草を常にやっていると大変なので、防草シートを敷いてしまおうかなというふうに思っておりますので、一時的にちょっとそのお金がかかってしまうとい

うのはあります。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） これどこで聞こうかというのすごく迷っているのですけれども、207ページぐらいかというふうに思うのですけれども、何かというと、保育士の数なののですけれども、保育士の数と、いわゆる会計年度任用職員の割合というか人数と、これ分かりますか。来年度どう見ているかというのは分かりますか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） 保育士の割合なのですが、令和6年2月現在でちょっと集計をしてありまして、会計年度の保育士が158人、正職員が97人でございます。合計で255人になるのですが、割合としましては、会計年度の先生がやはり62%を占めていまして、正職員が38%というような割合でございます。この割合に準じた形で予算のほうを組んでいるような状況でございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 数からいくと、去年の2月に調査しているというか、やっていて、会計年度の先生も、正規の先生はこちら1人しか減っていないけれども、減っているという状況なのですけれども、大丈夫なのですか、減らして。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） 減っているというよりは、減ってしまったという状況で、やはり我々としては増やしていきたいのは当然でございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 例えば非正規から正規に変わるルートだとか、そういうものは今の栃木市にあるのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） 現在の段階では、毎年の保育士の募集に応募していただくという状況しか今のところはない状況です。今後につきましては、これは総務人事課とも一緒に検討していかなくてはいけないのだと思うのですが、会計年度で勤める先生を何らかの形で正職員のほうに任用替えというのですか、何かそういうのができるのかどうかというのはちょっとまた研究していきたいというふうに考えております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） もうそろそろ保育士のほうも、これは福祉のほうでも、さっきもそうだったのですが、人が集まらないというところすごく苦勞しているのですけれども、そういう状況になってきますので、多分今もそうなのだろうなという気がしますけれども、このまま放っておくと、あれ運営できないよというような状況になりますので、やはり何らかの処遇を改善していく必

要はあるのかなというふうに思います。これは部長に聞きます。必要があります。どう思われますか。

○分科会長（白石幹男君） 小川こども未来部長。

○こども未来部長（小川 稔君） 当然ながら、そういう意味での処遇、それとあとどうしても一般の会計年度任用職員と違いまして、ほぼほぼ同じような業務の関わり方をしている。そういったところで、やはり公平感というところでは、会計年度の人も感じているところだということは我々も理解しているところですので、先ほど松本課長のほうからも申し上げましたように、総務人事のほうと、今後こういった処遇の改善というものができるかは検討してまいりたいと思います。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） ぜひお願いいたします。

今のは保育園に関して先生のほうだったのですけれども、多分次のページというふうになるのかもしれませんが、具体的には上がっておりません。待機児童数のことなのですけれども、多分今いらっしゃるのだと思うのですけれども、いわゆる潜在的な待機児童数、入れないので入れていないというような方とか、それだから民間の一時とかという話とかもあるとは思っているのですけれども、その把握はされていらっしゃいますでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） 令和5年度で申し上げますと、4月の段階で待機児童はゼロ人といえますか、いまして、潜在的待機のほうが60名ほどおりました。4月と10月で調査があるのですけれども、10月の時点で待機児童としては3名で、潜在的待機児童としては89名という状況となっております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） もう令和6年度の募集が去年から始まっているよね。という状況なのですけれども、内定もしているか、今の状態だと。来年度の状況はどうなっていますか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） 新規の申込みにつきましては、申込者が730名ほどおりました。そのうち内定者が623名ということで、今の時点で保留者が107名ほどいる状況でございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 大体4月から始まると考えていいですよ、保育園も。それで107名の方が態度が保留ということなのですか。入れないという状況はないのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） この107名の方が4月から全員というわけではなくて、育休明けとかの関係があるので、4月から全員この方が使うというわけではないのですけれども、全く入れない状況かどうかというご質問かと思うのですが、やはり特定の地域といいますか、特定の施設に希望が

集中しているというのがございまして、特に市の中心部の保育園はやはり多くて、どちらかというと南のほうは入りやすいというふうな状況がございます。ですから、選ばなければという話はちょっとあまりよろしくない話なのですが、やはり定員的には足りているというふうな状況でございます。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 303ページになると思います。第3子以降の園児の補助金なのですが、これを聞いてしまうと面倒くさいから、実際の数を知ろうと思ったけれども、今回の予算ではどのような感じ、増えている、減っている、どういう感じで予算づけをされていらっしゃるのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） 今回は14名ほどを見ております。これは令和4年度の決算というか実績ですと17名ですので、やはり減少という形でちょっと見ております。

○分科会長（白石幹男君） いいですか、終わり。

そのほか。

梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） 199ページかな、母親クラブのやつなのですが、内容をちょっと教えてください。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） こちらはいわゆる母親クラブという団体がありまして、その活動に対する補助金でございます。内容はそれでよろしいでしょうか。来年度予算は1クラブに対する、1か所に対する補助金になっておりまして、今年度から比べると減額になっているかと思うのですが、今年は2つのクラブに対して補助をしておったのですが、1つのクラブが解散するという話になりましたので、そちらのほうの分の補助金というのはなくなっております。

○分科会長（白石幹男君） 梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） 人数はどうですか。

○分科会長（白石幹男君） 神長子育て支援課長。

○子育て支援課長（神長利之君） 補助する予定のクラブは、会員数13名になっております。

○分科会長（白石幹男君） 梅澤委員。

○委員（梅澤米満君） 207ページ、いまいずみ保育園とおおつか保育園、ほかにも不動産賃借料、基準というのは恐らく評価額の2%か3%かなと思ったのだけれども、更新のときにはいろいろお願いはしているのだろうと思うのですが、だんだん、だんだん地価が下がってきているような感じがするので、栃木市においては、だから、かなり安くなるのではないかなと思うのですが、そういう活動はしているのですか。

○分科会長（白石幹男君） 松本保育課長。

○保育課長（松本佳久君） やはり更新の時期に評価額との兼ね合いが当然ございますので、やはり下げただけのような交渉というのは行っております。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

○委員（梅澤米満君） はい。

○分科会長（白石幹男君） 何かあるのですか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ないようですので、こども未来部所管の質疑を終了いたします。

なお、議事の終了した執行部の方は退席していただいて結構です。大変ご苦労さまでした。

ここで執行部の入替えを行いますので、少しお待ち願います。

〔執行部退席〕

◎議案第２号の上程、質疑

○分科会長（白石幹男君） 次に、日程第２、議案第２号 令和６年度栃木市国民健康保険特別会計予算を議題といたします。

なお、各特別会計予算につきましても一般会計予算同様、本分科会での説明は省略いたします。

これより審査に入ります。

お諮りいたします。本案については、歳入歳出等を一括して審査いたしたいと思えます。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

ただいまから歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） 411ページでデータヘルス事業ということで、金額が上がっているのですけれども、どういう計画になっているのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 臼井保険年金課長。

○保険年金課長（臼井 司君） データヘルス事業につきまして、こちらは糖尿病性腎症の重症化の予防とか受診行動適正化の指導、健診異常値放置者の受診勧奨事業とかを業務委託によりまして行う事業というふうになっております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 内容を聞いたのではなくて、700万円から1,000万円に上がっているのです、新しい事業をされるのか、その内容についてなのですか。

○分科会長（白石幹男君） 臼井保険年金課長。

○保険年金課長（臼井 司君） データヘルス事業の生活習慣病重症化予防委託料、それと特定健診受診勧奨業務委託料、それと重複服薬者一覧作成委託料につきましての業務委託料が300万円ほど上がっております。

○分科会長（白石幹男君） いいですか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） では、今度は収入のほうに行きます。370ページという形になるのかなと思いますが、収入というか保険税の収納率は何％で、どのぐらいで計算されているのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 臼井保険年金課長。

○保険年金課長（臼井 司君） 収納率につきましては92.7％で計算しております。ちなみに令和5年度になりますと90.7％で計算をしておりますので、約2％上げております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 収納率が上がるということはいいのですけれども、あと国保全体で加入者の数が減ってきていますよね。そういうものもこの収納率に対して影響を与えているのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 臼井保険年金課長。

○保険年金課長（臼井 司君） 国保の被保険者につきましては、令和4年3月、それと令和5年3月、約1年間で2,000人ほど減っております。こちらの見積りにつきましても、その分を加味しておりますが、収納率は上げて試算をしておりますが、全体的な額で見ますと逆にマイナスというような形になっております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） ちょっと前までは国保が二百何十億円、10年ぐらい前かな、の予算をつけていたのですけれども、今は170億円で、もうじきもしかしたら介護のほうに抜かれてしまうのではないかなというぐらいな予算額になってきたのですけれども、ということは、国保で今まで結構心配していたのですが、そういう状況ではなくなってきた。利用者が少なくなっているんで、それが市が例えば減免している分は、市が補填していますけれども、そういうものが市に負担がかからなくなっているのと、そういうふうにも考えてもよろしいのでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 臼井保険年金課長。

○保険年金課長（臼井 司君） 全体的な被保険者が減少傾向にありますので、当然軽減された方等は、その分少しずつ全体のパイが減っておりますので、減ってはおりますが、軽減の枠についてはそのまま変わりはありませんので、市の法定負担分については、全体的には下がってはきておりますが、加入者についての枠のほうはそのまま同じですので、全体の費用、市の負担というのは、昔と比べると減ってきているのかなというの思います。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） これも短期証の方と資格者証の方がいらっちゃって、また資格者証ももらっていない方もいらっしゃるのだろうなと思うのですが、そこら辺の数というものはどういうふうに見ていらっしゃいますか。

○分科会長（白石幹男君） 臼井保険年金課長。

○保険年金課長（臼井 司君） 最新の数で申し上げますと、令和５年４月の段階で、短期証、資格者証の交付を受けていた方は935名いらっしゃいました。令和５年８月１日の保険証の更新の際は、６か月の短期証が326、３か月の短期証が446、資格者証の方が264ということで、若干は増えました。ただ、令和３年、令和４年と追っていきますと、令和３年ですと1,279、令和４年ですと1,087、令和５年で935ということで、全体的には下がり傾向ということになっております。

○分科会長（白石幹男君） いいですか。

そのほか質疑ないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

◎議案第３号の上程、質疑

○分科会長（白石幹男君） 次に、日程第３、議案第３号 令和６年度栃木市後期高齢者医療特別会計予算を議題といたします。

お諮りいたします。本案については、歳入歳出等を一括して審査いたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

ただいまから歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

質疑はないでしょうか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） 収納率何％で計算しているのかというのと、先ほどもあった、後期高齢者なので短期証はあって資格者証はないと思うのですが、その数、短期証の数をお願いいたします。

○分科会長（白石幹男君） 臼井保険年金課長。

○保険年金課長（臼井 司君） まず、収納率であります。特別徴収については100％、普通徴収については99％、滞納繰越分については49％で見積もっております。

また、短期証につきましては、令和５年52名ということになっております。ちなみに令和４年は62名、令和３年は84名ということになっております。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

そのほかありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

議事の終了した執行部の方は退席していただいて結構でございます。

執行部の入替えをいたしますので、少しお待ちください。

〔執行部退席〕

◎議案第4号の上程、質疑

○分科会長（白石幹男君） 次に、日程第4、議案第4号 令和6年度栃木市介護保険特別会計（保険事業勘定）予算を議題といたします。

お諮りいたします。本案については、歳入歳出等を一括して審査いたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

ただいまから歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

質疑はございませんか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） 478ページになるのかな、保険料のことなのですけども、収納率というもの、これは特別徴収もあるのだっけ。お願いいたします。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） 収納率でございますが、特別会計、年金天引きになっておりますので、収納率につきましては100％で計算しております。また、普通徴収につきましては93％で計算をしております。

○分科会長（白石幹男君） 内海委員。

○委員（内海まさかず君） 滞納繰越分はどの程度で見ていらっしゃるでしょうか。

○分科会長（白石幹男君） 寺内高齢介護課長。

○高齢介護課長（寺内 均君） 滞納繰越分につきましては、収納率29％で計算をしております。

○分科会長（白石幹男君） よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

◎議案第5号の上程、質疑

○分科会長（白石幹男君） 次に、日程第5、議案第5号 令和6年度栃木市介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）予算を議題といたします。

お諮りいたします。本案については、歳入歳出等を一括して審査いたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

ただいまから歳入歳出等を一括した質疑に入ります。

質疑ありませんか。

内海委員。

○委員（内海まさかず君） 561ページで、介護予防ケアマネジメント委託費ということで、これはどんどん年ごとに下がっていくのですが、その要因というものは何でしょうか。対象者自体は増えていっているのではないかなと思うのですが。

○分科会長（白石幹男君） 江面地域包括ケア推進課長。

○地域包括ケア推進課長（江面健太郎君） まず、総合事業の対象者自体は横ばいございまして、そういった状況でサービス料が増えていないというのは、前にも答弁させていただいたところでございますが、はっきりとしたエビデンスというものはございませんが、やはりコロナの影響での利用控えであるとか、そういったことが影響しているのかなと。ですので、例えば認定を受けたとしてもサービスに結びつかないというようなケースが多いということを認識しております。

○分科会長（白石幹男君） ないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（白石幹男君） ないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

◎閉会の宣告

○分科会長（白石幹男君） 以上で当分科会の審査は終了いたしました。

なお、分科会長報告の作成については、正副分科会長にご一任願います。

また、繰り返しになりますが、3月22日金曜日午前10時から予算特別委員会全体会において分科会長報告、質疑、討論、表決を行いますので、よろしくお願いいたします。

これをもちまして予算特別委員会民生分科会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

（午後 5時22分）